

これからの高等学校における部活動の在り方についての検討

中井 蓮 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 佐藤 馨

キーワード：部活動，教師，教育性と競技性

1. 諸言

部活動は時代とともに変化し続け、今もなお様々な問題点や課題を抱えている。西島(2006)の研究を見ても、部活動の問題点や課題、改善するための取り組みがなされているということが分かる。そこで本研究は実際に部活動をもつ高等学校教師のインタビュー調査を実施し、現在の部活動の現場において指摘されている課題を具体的に挙げ、それに対する改善策、改善するために起こる問題を明らかにしていく。先行研究で挙げられているような問題や課題が実際の指導現場で起こっているのか、教師はそれをどのように考えているのかということをも明らかにする。さらに先行研究およびインタビュー調査の結果をふまえ、これからの部活動がどのようにあるべきなのかを検討することを目的とする。

2. 研究の方法

1) 調査対象者：大阪府某公立高校の運動部を指導している体育教員 5名

2) 調査方法：ICレコーダーを使用し、15分程度のインタビュー調査

3) 調査期間：2013年10月～11月

4) 調査項目：1.指導歴 2.指導している部活動 3.指導方針について 4.部活動を指導していく中での壁や苦勞 5.全体的に見た部活動の問題点や課題 6.問題点や課題に対する改善策 7.部活動における教育性と競技性について 8.これからの部活動を考えるにあたって

3. 結果と考察

先行研究では部活動が抱える問題として指導者不足や生徒数の減少、資金面での問題などが挙げられていた。今回インタビューを行った

高校の部活動ではそういった先行研究で挙げられているような問題も実際にあるが、それが原因で部活動が全くできないという状況ではなかった。顧問以外の教師が部活動に参加し、部活動の実態を把握できるよう進めていくこと、現状を維持しながら工夫していくことが重要である。これからの部活動が良い方向に向かうための一つの提案として、スポーツにおけるプロクラブや企業などが高校の部活動への援助をしていくことや卒業生が後援会を結成し援助していくことで、様々な部分で部活動の環境が整うのではないかと考えた。

4. 結語

先行研究で挙げられているような問題がどの学校でも起きているということではなく、学校や地域の特徴によって様々な問題や改善するための取り組みがあることが分かった。これからの部活動の在り方として、顧問の教師だけでなくそれ以外の教師の部活動への様々な面での参加が必要になってくると考えられる。そして指導者不足や生徒数の減少などが増えてくるなかで、最終的には総合型地域スポーツクラブの普及に合わせて連携を図ることが必要になってくるのではないかと考えられる。学校という単位ではなく、地域で人を育てるということも考えていく必要があるのではないかとと言える。

引用・参考文献

西島央編著(2006)部活動：その現状とこれからのあり方.学事出版.

清水将(2011)高等学校における運動部活動の教育課程上の位置づけに関する検討.東亜大学紀要.第14号,17-32.